

連載 プロマネの現場から 第 128 回 上海の魅力的な図書館

蒼海憲治（大手 SI 企業・上海現地法人・技術総監）

昨年 4 月に上海に赴任し、早や 1 年半が経ちました。当初、上海生活で困ったことの一つが、日本では毎日のように通っていた本屋通いができなくなったことでした。

就労ビザがでるまでの 3 か月間は、2 週間に一度、帰国する必要があるため、帰国した際には、10 冊ほど新刊本を購入していました。しかしながら、絶対的に読み物が不足する日々が続きました。

これに対する解決策は、2 つでした。

1 つは、アマゾンの Kindle 及び Kindle unlimited の活用です。日本にいる時は、なかなか馴染まなかった電子書籍ですが、「活字中毒」の身として必要に迫られ、いまではすっかり電子書籍で読む読書生活にも馴染んでいます。

もう 1 つは、上海市内の図書館の活用です。

上海の自社オフィスから西側に徒歩 15 分ほどのところにある「上海図書館」です。



「上海図書館」は、上海市内で一番だけではなく、中国でも最大規模、4850万冊の文献総量があり、北京の中国国家図書館に次いで中国第二の図書館になります。この図書館には、膨大な中国語の書籍だけでなく、日本語や英語の書籍もあります。外国人に対しても、本の閲覧だけではなく、貸し出しもできます。私は週末しか利用しないのですが、沢山ある座席はいつ行っても満席で、学生だけでなく社会人の方も読書及び勉強をしてい

ます。彼らの熱心で真面目な姿を見るたびに、中国の方に対する尊敬の念が自然と湧きおこります。

この上海図書館の新館は、中国全国で初めて完全情報化され、海外の先進的な図書館自動化管理ソフトを導入した図書館になっています。その「eカード情報システム」は、上海市・区県・郷や鎮の三級ネットワークをすべてカバーし、全市の250近くの図書館を結び、280以上のオンラインサービスショップがあります。現在「eカード」は蔵書の貸出冊数は930万冊を超えています。その多くを、セルフ式のカード手続きと24時間セルフ図書館サービスで利用することができます。

また、同じく自社オフィスから南方面に徒歩15分ほど歩くと、「黄浦区明復図書館」があります。



旧名を「盧湾区図書館」といい、2011年の盧湾区・黄浦区の合併により改名しています。この図書館の歴史は古く、建物は1929年に竣工され、数学者・胡明復を讃えて、「中国科学者明復図書館」の名がつけられ、中国初の公共科学技術図書館として運営をスタートしました。1994年には国家第一級図書館に選ばれ、名実ともに上海市を代表する図書館の1つとなっています。建物は、老上海の趣を感じることができる石庫門建築です。中は、ちょっと古びていますが、日本の図書館にも似ていて、落ち着きます。

上海市内には他にも数多くの図書館があります。今回はその中から、私が好きな図書館を、3つ紹介します。

1つ目は、上海市の西側にあり、昨年末に開通したばかりの地下鉄17号線・青浦新城にある「青浦図書館」です。



ここは湖に浮かぶ、中国初の「水上図書館」であり、図書館のテラスから湖を眺めながら、本を読むことができます。

2つ目は、上海市の北側に位置する地下鉄11号線・白銀路にある「嘉定図書館」です。



2013年にアメリカの建築誌で、世界最優秀公共図書館に選出されただけあり、美しい外観だけでなく、空調・明るさ・居住性など機能性に優れた図書館です。

3つ目は、上海市の東側、浦東地区にある「浦東図書館」です。



地下鉄 7 号線「錦綉路」駅から徒歩 5 分の浦東文化公園内にあります。2010 年にオープンしたばかりということあり、とてもきれいな、そして、超巨大な図書館です。

地上 6 階、地下 2 階建てで、建築面積約 6 万平方メートル、蔵書数 300 万冊、閲覧席 3000 席の中国でも最大規模の図書館の一つです。

施設内は、1 階から 6 階までが吹き抜けになっており、蔵書数から想像するイメージと異なり、とても開放感があります。

さらに、施設中央の 5 階と 6 階部分にかけて「空中花園」があります、ガラス張りのキューブが 2 本の通路に支えられ中空に浮かぶ「空中花園」は見事です。



この3つの図書館だけではなく、上海市内には良い図書館が多く、このような場所で、週末の一時、好きな本を読むことができることは、とても幸せなことだと思っています。